

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第6回 神戸小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年3月5日(木) 10:30~11:10

2 場 所 神戸小学校図書室

3 あいさつ(委員長・校長)

(1) 委員長

暖かくなり春が来たと思ったが、また寒くなった。真冬に戻った感がある。3月を迎えた。子どもの成長を確かめ、その成長を喜ぶ月。4月からの子どもたちの姿と全く同じ子どもはいない。学校・学級で過ごす中で、それぞれに成長する姿が見られる、うれしい季節である。

今日は今年度最後の学校運営協議会。5月に校長から学校経営方針の説明があり、承認を行った。8月には子どもの健康に特化した話もあった。授業参観も何回かあって、子どもの姿を具体的に理解することができた。そして今日は、学校がまとめた学校関係者評価をもとに協議し、まとめの評価をすることになっている。学校はこれをもとに来年度の準備をお願いしたい。委員の皆さんには学校からの説明を聞いて、さらにたくさんのご意見をいただきたい。

(2) 校長

あっという間に3月を迎えた。先週の6年生を送る会では、5年生が立派に準備を進めることができた。1~4年生は、この日に備えて準備や練習を行い、発表した。6年生の中には涙を浮かべる子も見られ、良い6年生を送る会となった。また、今週から卒業式の練習に入っている。来週からは校長も参加して行う。6年生は巣立ちの時期を迎え、期待と不安を胸に学校に来ている。5年生は、6年生になるんだという気持ちをもつ時期。もうすぐ地区別児童会があり、新1年生から新5年生を引っ張っていくという気持ちになっている。1年生~4年生も、様々な学習や行事を通して成長してきた。今日は学校関係者評価について話し合う機会を通して教育活動を振り返り、神戸小の来年度の方向性を考え、4月から始まる教育活動への準備を進めていきたい。

4 協議内容

(1) 「学校関係者評価」について

<委員から>

- ・ 不登校の子どもとのつながりについて。家庭訪問・連絡の成果はどうか。また、それらの目的は何か。

→(学校) 家庭訪問をしても最初は会えない日もある。継続することで、子どもとのコミュニケーションを図ることができるようになることもある。来ることができなくても、クラスの一員として、仲間として、クラス運営をしていく中で、つながりを生むことができる。

- (委員) 学校と不登校の子どもたちが、つながることを継続してほしい。
- ・ 学校関係者評価を行い、改善点を出しあう。そして、その改善点を含めて出し合われた内容を、次年度の教育活動につなげる必要がある。今年度学校関係者評価を来年度第1回の学校運営協議会で、資料として配付するとよい。
  - ・ アンケート「自分からすすんで問題に取り組んでいる。」に対し、8割の子が肯定的にとらえているが、2割の子は否定的回答。全体の場では考えを出しにくいこともある。小グループやペアで活動するなど、話しやすい状況、伝えやすい状況をつくることで、その2割の子どもたちに働きかけたい。授業の中で前に話した子どもの意見を受けて考えたり、意見を言ったりすることが、子どもたちの考える力を育てることにつながる。
  - ・ 家庭学習について、強化週間で取組が切れてしまうのではなく、取り組み続けることで家庭学習の定着につなげていけるとよい。
  - ・ 学校からの情報発信について。回覧板で学校だよりが回ってくるが白黒で見にくい。カラー刷りにすることで、ボランティアのことも目が行きやすくなるのではないか。白黒でもコピー機で発行することも考えてはどうか。また、WEBでたよりを見られるページへつなぐQRコードを目立つ場所に掲載するなどの工夫が必要。

#### 5. 総括(学校運営協議会アドバイザーから)

令和7年度最後の学校運営協議会となった。本日は、たくさん意見をいただくことができた。今後どのように教育活動を進めるか、学校を運営するか。学校は、関係者評価や本日の意見を踏まえて進めていただきたい。また、学校は、情報をどのように発信すれば有効なのか、どの情報が求められているかを把握して発信することが大切。QRコードの活用なども含めて、どのような情報をどのように発信するかを考えていただきたい。

今日、この場でよい話し合いをしていただいている。学校運営協議会でどのようなことが議論されているのか、保護者の方等に知ってもらうよう教育委員会でも考える必要がある。学校だよりも活用するなど、コミュニティスクールのことがより広がるように検討したい。